



国立大学法人

東京医科歯科大学

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

法人番号 23

令和4年度自己点検・評価報告書 (指定国 KPI 関係)

令和5年6月

国立大学法人

東京医科歯科大学

○ 指定国立大学法人としての達成状況

(1) 人材育成・獲得

【卓越大学院生へのインセンティブ付与】

今年度は、「TMDU 卓越大学院生制度運営委員会」「TMDU 卓越大学院生制度選考委員会」において大学フェロシップ創設事業における採用審査を実施し、TMDU 卓越大学院生 I・II として大学院生を新たに 132 名採用した。TMDU 卓越大学院生制度運営委員会にはアドバイザーボードとして、他大学の教授（理事・副学長クラス）3 名が学外委員として参加している。

評価指標

第 4 期中期目標期間終了時目標値	5 名
令和 4 年度実績値	132 名

【大学発ベンチャー】

令和 4 年度は、大学発ベンチャーを対象として想定したストックオプションの受入に関する規則及び審査を行う新株予約権受入審査委員会の設置等の体制を整備した。同委員会では、ライセンス契約の対価として、生体材料工学研究所の教授のアイデアをもとに設立されたベンチャー企業「Prostork」から発行されるストックオプションの受入を行うことを決定した。このような取組の実施等により、令和 4 年度には大学発ベンチャーとして 3 社を設立、認定ベンチャーとして 2 社に称号を付与した。本学では、第 4 期中期目標期間以前より、延べ 19 社の大学発ベンチャー（うち認定ベンチャーは 9 社）を設立している。

評価指標

第 4 期中期目標期間終了時目標値	20 社
令和 4 年度実績値	5 社

(2) 研究力強化

【国際共著論文比率】

【Top10%論文（出版物）数】

「創生医学」「難病・希少疾患」「口腔科学」を「重点研究領域」として設定し、それぞれ第一線で活躍する研究者をトップダウンにより「指定研究者」として選定した。加えて、若手研究者中心にボトムアップで学内公募・選考した「公募研究者」も併せて構成員とする仕組みとした。このように、異分野融合研究や若手研究者育成を促進した結果、研究が進捗し、国際共著論文や被引用数の多い論文が増加した。

また、核酸医薬・ペプチド医薬関連の 3 つのフラッグシップ技術を活かすために「核酸・ペプチド創薬治療研究センター(TIDE)」を令和 3 年度に設立し、令和 4 年度に本格的に動き始めている。

これらの取組等の影響により、国際共著論文の令和 4 年度（直近 5 年の平均）は 25%（448 報）、被引用数 Top10%論文（出版物）数は 233 報（直近 5 年の平均）となり、2018 年度の 201 報と比して 1.16 倍となっている。なお、被引用数 Top10%論文（出版物）数の直近 2 年の値は Scival からの出力時期により、数値の変動が大きくなる傾向があるため、参考値となる。

※国際共著論文比率（直近 5 年の平均）

評価指標

第 4 期中期目標期間終了時目標値	30%
令和 4 年度実績値	25%

※Top10%論文（出版物）数（直近 5 年の平均）

評価指標

第 4 期中期目標期間終了時目標値	1.25 倍
令和 4 年度実績値	1.16 倍

【卓越大学の教員としてはばたく若手研究者】

令和4年度には、本学と同等以上の卓越大学へ教員として6名が転出した。

また、若手研究者を、先駆的・独創的な研究を実施する研究者（クリニシャン・サイエンティスト(CS)）に育成するための支援制度を確立したほか、文科省・JSTの博士後期課程支援事業である「卓越大学院生」からCS養成支援7名を選考、次世代研究者ユニット7名、新たなテニュアトラック准教授2名を採用した。

評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	25名
令和4年度実績値	6名

【ハブ海外協定校数】

※(3) 国際協働を参照

(3) 国際協働

【ハブ海外協定校】

令和4年度は、海外拠点の在り方を検討する場として「海外拠点の在り方検討会」を全4回開催し、海外拠点構想について検討を重ねた。今後は拠点候補校との連携を深化させるため、学生派遣の派遣先と拠点を関連づける等の工夫を実施していく。

評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	4大陸7校
令和4年度実績値	3大陸4校

【国際共著論文】

※(2) 研究力強化を参照

(4) 社会との連携

【民間資金収入】

特許・MTA、治験、資産活用、共同研究、寄附金、基金等、民間資金に関連する各項目で増収に向けた取組を実施し、令和4年度には、第4期中期目標期間終了時目標値である約34億円を達成した。民間資金収入の増収にあたり、特に、資産活用では、TMDU Innovation Park (TIP) や、駿河台地区・塔の山地区の資産貸付等の取組を行ったほか、今後の越中島地区の土地活用に向けて、令和4年度は事業協力者の公募・選定、基本協定書の締結を行った。

評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	22億円
令和4年度実績値	34億円

(5) ガバナンスの強化

【海外向けプレスリリース】

国際プレスリリースについて、令和4年度には37件実施し、第4期中期目標期間終了時目標値を初年度から超えている。また、科学プレスリリースのプラットフォームである EurekAlert!へ英文プレスリリースを投稿することにより、投稿後にメディアに掲載された件数は497件であった。

この他に、英語版研究紹介動画「Research Activities」を23本作成してYouTubeで公開するとともに、作成した動画を海外の研究者に向けてターゲティングメール10,000件×3回を利用して発信した。

評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	30件
令和4年度実績値	37件

(6) 財務基盤の強化

【基金の募金額】

平成23年度に設立した大学基金は、総額10.6億円（令和5年3月末時点）を超えており、順調に基金額を伸ばしている。なお、第4期中期目標・中期計画における評価指標の設定時には平成30年度までの基金累計額である2.8億円を基準額としていた。

平成30年度から現在までに基金額を大幅に増やすことができた要因として、新型コロナウイルス感染症に対して本学を挙げて対応を取ってきたこと（令和元年度寄附金額：約4,200万円、令和2年度寄付金額：約2億6,500万円）や、大学統合により本学への関心が高まったことが考えられる。

また、令和4年10月には、令和3年度から止まっていたクレジット決済を再開するとともに、令和4年11月からネットバンキングでの寄附金受入を開始するなど、寄附窓口を拡大した。加えて、令和4年12月は寄附強化月間として、寄附決済方法の拡大の周知にあたり、医科同窓会・歯科同窓会に会報誌への掲載依頼を行ったほか、過去の寄附者へメール送信や郵送を通して広く周知を行った。このような取組等により、令和4年度における寄付金額は約2億2,000万円であった。

評価指標

第4期中期目標期間終了時目標値	17億円
令和4年度実績値	10.6億円